

実施事業により目指す将来ネットワークイメージ



位置づけ	系統	役割	確保・維持策
広域交通 (広域幹線)	JR日豊本線	宮崎市と延岡市、福岡方面へ連絡し、地域の骨格形成軸となる路線	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保。
地域間交通 (幹線)	路線バス	周辺都市への連絡及び市内の骨格路線	地域公共交通確保維持事業(幹線補助)や県市町村補助を活用し持続可能な運行を目指す。道路ネットワークの整備により運行の安全性、定時制の確保、充実を目指す。
地域内交通 (支線)	ぶらっとバス	広域交通に接続、地域間交通を補完	地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用し持続可能な運行を目指す。道路ネットワークの整備により運行の安全性、定時制の確保、充実を目指す。
	南部ぶらっとバス		
	乗合バスとうごう	地域間交通を補完	
補完交通	乗合タクシーほそしま	上記を補完し、高齢者等の少量個別輸送を担う移動手段	地域住民、交通事業者と協議の上、利用ニーズに応じた運行水準を確保。
	新たな交通の検討		

事業を評価するための指標と目標値

計画目標	評価指標	定義	現況値 R3(2021)	目標値 R9(2027)
①誰もが利用しやすく、コンパクトな公共交通ネットワークの実現	公共交通利用者数 ※1	●日向市駅の乗車人員 ●路線バス利用者数 ●市民バス利用者数	1,079人/日 113,076人/年 64,038人/年	1,300人/日 113,100人/年 81,100人/年
	交通結節点の機能整備 ※2	●市内4駅のうち、市民バスが乗り入れを行っている駅数	3か所 (日向市駅、南日向駅、美々津駅)	4か所
	収支率 ※3	●市民バスの収支率	17.0%	20%以上
	財政負担額 ※4	●市民バス運行に係る利用者1人当たりの財政負担額	719円/人	620円/人
②地域輸送資源の相互連携による汎用性の高い公共交通サービスの実現	移動困難者の割合 ※5	●市民アンケートにおける外出時に困っている人の割合	8.5%	5.0%未満
③他のまちづくり分野との連携による魅力的な交通環境の実現	他のまちづくり分野との連携 ※6	●観光や商業等と連携した取り組み	—	1件以上
④市民・交通事業者・行政等の協働による持続可能な仕組みの実現	利用促進策の取り組み ※7	●バスの乗り方教室や出前講座等、モビリティマネジメント施策の取り組み	3回	8回
	新たな交通システムの導入 ※8	●デマンド交通等、新たな交通システムの導入地域	—	1地域

※1 各公共交通手段別の利用者数。市民1人あたりの参考値(R3→R9)：日向市駅：6.7回/人・年→8.1回/人・年、路線バス：1.9回/人・年→1.9回/人・年、市民バス：1.1回/人・年→1.4回/人・年
 ※2 市民バスが乗り入れを行っている鉄道駅の総数(財光寺駅追加整備)
 ※3 市民バスに係る年間収支率(運賃収入÷運行経費)
 ※4 市民バス運行に係る利用者1人当たりの財政負担額。R3:719円/人=(46,045千円)÷(64,038人)→R9:620円/人=(50,282千円)÷(81,100人)
 ※5 市民アンケート調査における「外出時に交通手段がなく困ることがある」と回答した方の割合
 ※6 観光や商業等他のまちづくり分野と連携した利用促進策の取り組み件数
 ※7 バスの乗り方教室や出前講座等、これまで利用する機会がなかった人々への利用促進に向けた取り組み回数
 ※8 現在の公共交通ではカバーしきれない地域における新たな交通システムを導入する地域数

日向市

地域公共交通計画

概要版

令和5(2023)年3月策定



計画策定の経緯

人口減少、少子高齢化が進展する本市の公共交通は、利用者の減少に伴う路線バスの廃止や減便が行われ、高齢者や学生など交通弱者に対する交通手段の確保は重要な課題である。そのため、路線バスが運行されていない交通空白地域にはぶらっとバスなどの市民バスを運行するなど、公共交通を軸とした「コンパクト・プラス・ネットワーク」型のまちづくりを目指している。

本計画は、地域の特性に応じた生活交通の確保を推進するとともに、新たなモビリティサービスの活用も視野に入れ、将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークの構築を図るために策定した公共交通のマスタープランである。

課題

課題① 高齢化の進展に伴う高齢者等の移動手段の確保

高齢化の進展に伴い、自家用車を手放せず移動に不安を抱える高齢者が増加する可能性があることから、公共交通の見直しと充実を図ることで、高齢者や障がい者等の移動手段を確保していくことが必要である。

課題② 市街地エリア・南部エリア・東郷エリアをつなぐ拠点幹線軸の維持・強化

日向市立地適正化計画では、市全域がコンパクト化の効果を受用できる「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を実現することとしている。しかしながら、課題として南部エリアや東郷エリアなどの都市計画区域外から市中心部への移動における不便さがあることから、交通の安全性や定時性の確保に向けて、主要幹線である国道の4車線化やバイパス整備等の設備計画とも連携を図り、真の「コンパクト・プラス・ネットワーク」を目指すことが重要である。

課題③ 地域の実情に応じた新たな公共交通サービスの構築

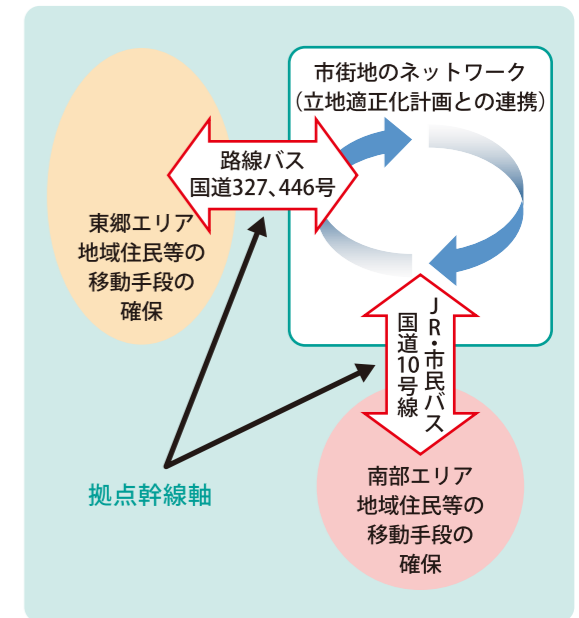
市内には鉄道、高速バス、路線バス、市民バス、タクシー等が運行しており、公共交通サービスエリアは全市的に広がっている。しかしながら、一部エリアに公共交通不便地域が存在していることから、これらエリアへの対応としてデマンド交通の導入や地域輸送資源の総動員等、新たな公共交通サービスを検討し、移動困難者を救う取り組みが必要である。

課題④ 各公共交通の相互連携による利便性の向上(MaaSの推進)

市内の公共交通は、広域交通(鉄道・高速バス)、地域間路線(路線バス)、地域内路線(市民バス)の異なる機能に分類される。交通機関同士の相互連携により、乗継利便性の強化や路線情報を一元化するなど、利用者の利便性向上(体制の構築や、他分野・他産業と連携した公共交通ネットワークの構築と交通結節点強化など)を図ることが必要である。

課題⑤ 交流人口の拡大に向けた観光二次交通等の整備

公共交通に関する市の財政負担は増加傾向にあり、生活交通のみで地域の公共交通を維持していくことは困難であることから、交流人口を増やす観光イベントや集客施設等と連携した利用促進策を講じ、新たなニーズを獲得することで生活交通の一部を補完できる体制が必要である。



課題を解決するための実施事業

基本理念

将来にわたり
市民の暮らしをつなぎ
移動を支える
公共交通ネットワークの
実現

基本方針

- ①公共交通の相互連携及び機能分担による誰もが利用しやすい交通環境の提供
- ②将来にわたり持続可能で“コンパクト・プラス・ネットワーク”を支える交通軸の形成
- ③新たな公共交通サービスの導入による公共交通不便地域への対応
- ④観光や商業等、まちづくりにおける他分野との連携
- ⑤運行情報の一元化による利便性向上及び利用を促進する取り組みの実施

計画目標

- ①誰もが利用しやすく、コンパクトな公共交通ネットワークの実現
- ②地域輸送資源の相互連携による汎用性の高い公共交通サービスの実現
- ③他のまちづくり分野との連携による魅力的な交通環境の実現
- ④市民・交通事業者・行政等の協働による持続可能な仕組みの実現

計画目標	実施事業	具体的な内容	実施工程					実施主体
			R5	R6	R7	R8	R9	
誰もが利用しやすく、コンパクトな公共交通ネットワークの実現	【事業1】広域交通の利便性向上	①鉄道の利便性向上及び駅舎の利活用の検討	検討・協議				実施	日向市、鉄道事業者、近隣自治体
	【事業2】路線バスの維持	①路線の維持	実施					日向市、路線バス事業者、近隣自治体
		②イオンタウン日向一道の駅とうごう間の路線の見直し	検討	実施				
【事業3】市民バス(フィーダー交通)の維持・強化	①ぷらっとバス、南部ぷらっとバスの維持及びサービスの見直し ②乗合バスとうごう、乗合バスなんぶ、乗合タクシーほそしまにおける新しい交通の導入の検討	実施					日向市、路線バス事業者、タクシー事業者	
		検討・協議		実施				
地域輸送資源の相互連携による汎用性の高い公共交通サービスの実現	【事業4】交通結節点の機能整備	①広域交通、地域間交通、地域内交通が接続する結節点の整備	検討・協議		順次実施			日向市、交通事業者
		②接続利便性の強化	検討・協議		順次実施			
	【事業5】タクシーの利用促進及び地域輸送資源の活用法の検討	①タクシーの利用促進	実施					日向市、タクシー事業者、学校関係者等
		②スクールバス等、地域輸送資源との連携	検討・協議		実施			
【事業6】MaaSの推進	①MaaSに関する取り組み着手	検討・協議					日向市、交通事業者、近隣自治体	
		【事業7】わかりやすい情報発信	①バスロケーションシステムの導入研究	検討・協議				
	②総合公共交通マップの作成	検討・協議		実施				
他のまちづくり分野との連携による魅力的な交通環境の実現	【事業8】キャッシュレス決済システムの導入検討	①商業施設等と連携した取り組みの検討	検討・協議		順次実施			日向市、交通事業者、商業・観光事業者等
		【事業9】福祉分野との連携	①タクシー料金助成事業等の継続	実施				
		②免許返納者への特典の継続	実施					
【事業10】観光と連携した交通体系の構築	①来訪者(観光客やワーケーション等)の二次交通確保 ②サイクルトレインや焼酎列車等の企画列車の検討 ③観光客等へ向けた周遊割引運賃の導入の検討	検討・協議		実施			日向市、交通事業者、観光事業者	
		検討・協議						
		検討・協議		実施				
市民・交通事業者・行政等の協働による持続可能な仕組みの実現	【事業11】ラストワンマイル対策	①地域住民主体の取り組みの検討(地縁交通等)	検討・協議		実施			日向市、市民、交通事業者
		②新しい交通の導入に向けた地域コミュニティの体制づくり	検討・実施					
【事業12】公共交通利用のメリットに関する市民への普及活動	①お試し乗車の実施等、公共交通を利用する“きっかけ”の提供 ②出前講座や乗り方教室の実施	検討・実施					日向市、路線バス事業者	
		検討・実施						